



## 「成長」しました

南帷子小学校長 堀田 誠

はやいもので、4月6日の入学式・始業式からあっという間の3か月でした。子どもの成長曲線はとも早く、そして遅いです。

1年生の給食の配膳をずっと手伝ってきました。幼稚園・保育園までは弁当だったので、食缶にはいった食材を盛り付けたり、器を運んだり、牛乳、箸といった個人のものを取りに行ったりと色々とやることが多いです。また、コロナ禍の給食のため、手洗い・消毒の徹底、私語なく配られるまで待つことなど、「いただきます」するまでに多くの時間を要します。4時間目は11時30分から12時15分までの45分間ですが、4月は11時45分ごろから給食の準備にかかります。給食当番の子どもも配膳活動は初めてです。可児市は陶器の器なので、あたたかいものをあたたかく食べることができます。しかし、1年生の子どもにとってこの陶器の器が「重い」のです。片手で器をもち、そこへおたまで味噌汁を入れます。だいたいは2回すくって器に入れれば適量です。しかし、1回器に入れるとさらに重たくなり、おたまで2回目をすくうことに気が取られ、器が傾いてしまいます。その時様子が頭に浮かぶと思いますが、1回目に入れた汁はこぼれます。上手くいきません。先生方の力を借りながら、およそ12時10分ごろには配膳が完了し、いただきますです。



毎日水やりして満開の朝顔

給食当番はA～Cチームが1週間交替で行います。5月になると2回目の当番です。その頃になると12時ぐらいから準備にかかります。6月になるとさらに遅くなります。何をすればよいのか分かっているので、自分で考えて動くようになります。4月に、手を振るわせながら盛り付けを行っていた子も、重たかった器をしっかり持ち、そしてこぼすことなく盛り付けを行うことができるようになりました。また、中には、「給食当番がやりたい」と拗ねる子もいました。当番活動を行わず、座って待っていれば食べ物は目の前に準備されます。この方が楽ですが、給食当番活動に「やりがい」を感じたのでしょうか。

学校では色々な当番活動があります。学校は給食当番のプロを育成するところではありません。給食当番を頑張ることで、人のために働くことの喜び、仕事をすることで生きがいを感じて生活できるよさを体感し、それが「生きる力の源」となるでしょう。可児市の学校では「笑顔の“もと”」を大切にした教育が行われています。家庭だったら友達のために給食当番はできないでしょう。6～8人の友達と協力して当番活動は行わないでしょう。大人になった時に自分の能力を発揮できるための力をつけるために学校があります。1年生に代表されるように316人の南帷子小の子どもは「成長」しました。

夏休みに入ると懇談があります。そこで、担任の先生方から具体的に子どもの良さを伝えていただきます。その良さのすべてが「笑顔の“もと”」です。お家で大いに褒め・認めてください。

今年の夏休みは39日間です。8月29日には、さらに遅くなった一人一人の子と会えることを楽しみにしています。